

延期になった運動会まであと1週間となり、子どもたちは本番に向けて真剣な面持ちで練習に取り組んでいます。新型コロナウイルス予防のために、発声や少人数での交流ができず、のびのびと音読や対話ができないという状況にあります。そのため、子どもたちはマスクをして小さな声ではありますが、意欲的に音読をしています。それは、発声のできるご家庭で、おうちの方が毎日音読を聞いてくださっているおかげです。さて、音読をさせることにはどんな効果があるのでしょうか？

- ①発声力 音読の基本は「声を出すこと」です。姿勢、口の形、呼吸法など、よりよい音読のための声の出し方を身につけます。
- ②表現力 場面の様子、登場人物の感情の変化、筆者の主張について、声の大きさや速さの調整の仕方、間の取り方など、聞き手を意識した読み方を身につけます。
- ③傾聴力 音読には聞き手も重要です。
友だちや兄弟の音読を聞くことによって、よりよい聞き手になります。
- ④読解力 「地の文はどの登場人物の視点で書かれているか」など、文章を読解するにあって重要なことに気づき、考えを深めさせる効果もあります。
- ⑤ほめ力・アドバイス力 音読を通して互いの成長やよさをほめ合う力を身につけます。また、相手の成長を願い、アドバイスし合う力を身につけます。

参考：田中光夫「豊かな感情が育つ！論理的思考が身につく！音読指導のアイデアとコツ」



「声に出して読む」という単純な活動にも関わらず、様々な観点から「できるようになった」「変わった」という達成感を味わうことができるのが、音読のよさです。また音読の練習によって「文章をスラスラと読み上げる力」をつけることも大切です。

流暢に音読するように指導していく上で欠かせないのが、「今自分が読み上げているところよりも先を見ていくこと(以下、目ずらし)」です。今見ている文字を読み上げているうちは、なかなか音読のスピードは上がっていきません。—「目ずらし」は単語や文節を瞬時に認識し、もうそれを見なくても処理(発音)できるからこそ、成り立つ技術なのです。

参考：土居正博「クラス全員のやる気が高まる！音読指導法—学習活動のアイデア&指導技術—」

読書をするなど、長い文章を黙読することと声に出して行う音読は別のことと捉えがちですが、スラスラと先を見ながら音読する習慣がつくことで、黙読のスピードも上がり、読解力も上がるということです。本当に毎日お忙しい中、音読の聞き取りにご協力いただきありがとうございます。子どもたちが楽しんで文章を読むことができるようになるため、今後ともご協力をお願いいたします。